新年のごあいさつ

産業基盤の強化で新津の新時代を！

新津市長 斎藤富雄

あけましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい平成三年の新春を、ご家族おそろいでお健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、新津市は一月一日で市制四十周年を迎えました。昭和二十六年、県下七番目に市制を施行した本市は、昭和三十年に金津村と小合村を、三十二年に新関村の大部分を合併し、米作、花き花木を中心とする農業を基幹産業としながら発展してまいりました。その一方で、県都新潟市に接し、便利な交通網に恵まれていることから、昭和四十年代以降活発に宅地開発が進められ、住宅都市としての性格も強まってきております。

そして、市制四十周年を迎えた今、本市は新たな都市づくりの段階へとさしかかってきており、その新しい動きを象徴するものとして、工業団地計画とふるさとターミナル構想の二大プロジェクトがあります。これまで、本市は農業以外の産業基盤が弱いと言われてきました。それだけに、平成六年にも一部供用開始が見込まれる磐越自動車道を視野に入れながら、これらの推進に全力を投入していきたいと考えています。

このほか、新津駅周辺整備や能代現川の利用プランを含む市街地中心部の整備計画、また、急務となっている焼却場の新設など課題が山積していますが、市制四十周年を五十周年（二十一世紀の二〇〇一年です）へ向けてのスタートとするべく気持ちを新たにしています。変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成三年元旦

懸案事業の進捗へ議会も決意新たに

新津市議会議長 伊藤文男

あけましておめでとうございます。すがすがしい平成三年の新春を迎え、市民の皆さん方のご健康とご繁栄を心からお祈りいたします。

さて、当市議会は、昨年八月に議員定数を三十二名から二名減の三十名に改正し、今春の市議選から実施することといたしました。定数の増減についてはいろいろ異論のあるところですが、円満のうちに決めさせていただいたことは議員各位並びに市民の皆さん方のご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

顧みますと、昨年は天皇の即位の礼という節目の年でした。また、国外でも東西ドイツの統一を筆頭に、後々まで記憶されるべき大事件が続発した年でした。なかでも中東湾岸危機は、世界の出来事が即市民生活に影響を及ぼすことを教えてくれた意味で忘れられないものがあります。そして、普段からの多方面にわたる情報の収集と対応策の準備、さらには適確な情勢判断、敏速な行動という政治に求められる要素を極めてわかりやすい形で示してくれた点でも印象深いものでした。

こうした情況のもと、本市は、今年、市制四十周年という節目の年を迎えました。都市基盤整備をはじめ、各事業が着実に成果を挙げる中でこの意義深い節目を迎えたわけですが、ごみ焼却場の建設、工業団地の造成など課題もまた少なくありません。

年頭にあたり、議会としてもこれら懸案事業の進捗を改めて強く願うとともに、市勢の一層の前進へ向けて決意を新たにしているところです。皆様の旧に倍するご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成三年元旦

お買物、ご用命は市内で

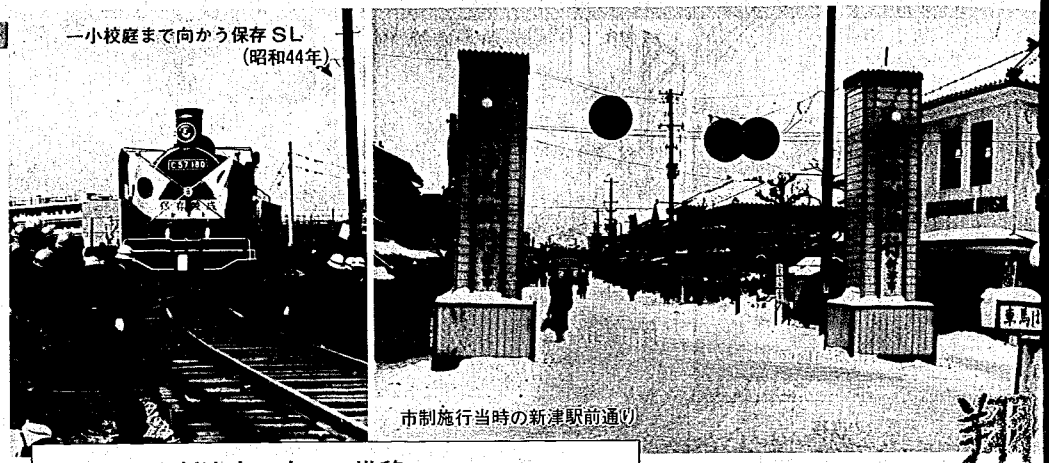
新年あけましておめでとうございます。〈お買物は今年もチューリップチェーン店会で〉

本町4 チューリップ店会 お店紹介

旭自動車工業 ☎22-1347
生そば 天ぷら ますだや ☎24-6315
小熊鮮魚 ☎22-3004
ヤマイチファッション ☎22-3673
お茶とセトモノ 伊東商 ☎22-0362
花のおやまつ ☎22-0893
服飾の窓具 ☎22-0667
ニイガタオオサカヤ ☎24-1347
まつさか ☎22-3981
山好遠藤店 ☎22-0864
カメラのサカツメ ☎22-0045

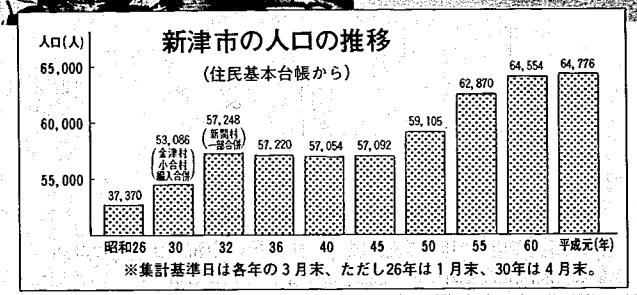
翔ぶが如き時の流れ

新津市制施行から40年



一小校庭まで向かう保存SL（昭和44年）

市制施行当時の新津駅前通り



一月一日、新津市は昭和二十六年の市制施行から四十周年の節目を迎えます。

昭和二十四年に日本国有鉄道が発足。翌年NHKがテレビの実験放送を開始。戦後、日本が急テンポで経済復興をなし遂げようとしている最中、新津市は誕生しました。

町から市へ――それは新津の歴史にとって非常に大きなできごとでした。人口数だけでなく、都市的施設の整備がポイントになる市制施行は、ある意味で〝まちづくり〟の出発点だったといえるかもしれません。

〝鉄道のまち〟から〝住宅都市〟へ

全国で二百六十二番目に市制施行の産ぶ声をあげた新津市。当時の人口は三万七千三百七十人（男一万八千三百二十七人、女一万九千四十三人）で、面積約四十平方キロ、穀倉越後の心臓部にあって県都の交通の要衝にありました。

特に、鉄道は日本経済を支える重要な輸送機関であったため、当時の国の施策としてその整備が重点的に進められていました。こうした時代を背景に、新津は国鉄（現在のJR）の信越本線、羽越本線、磐越西線の三線が交差する重要拠点として発展してきました。

新津の鉄道の元祖は、明治三十年沼垂・一の木戸（現東三条）間に開通した私鉄〝北越鉄道〟ですが、明治四十年に国有化され、以後集中して鉄道施設が建設されました。昭和に入り、十一年に新潟鉄道局が新設された後も、十六年の工場（現車両管理所）の設置、四十年の鉄道学園の移転と続きました。

しかし、昭和四十年代後半の高度経済成長期以後、国民一般にも広くモータリゼーションの波が押し寄せ、〝鉄道〟から一家に一台というような〝車〟時代へと移り変わっていきました。そして、〝鉄道のまち〟に代わるかのようにしだいに〝住宅都市〟としての性格が強まるようになったのです。

在来の鉄道と道路網の整備は、市制施行当時の鮮明なまちの印象はないものの、私たちの暮らしを一変させました。上越新幹線、国道403号線が開通し、磐越自動車道工事が進められている現在に至っては、新たな生活圏、経済圏が確立されつつあるといえます。

お買物、ご用命は市内で

●あなたの安心を企画する●
有限会社 樋口保険企画
☎0250・22・6774 FAX0250・24・9110
〒956 新津市金沢町3丁目7番20号

明けましておめでとうございます。
渡辺美容院
本町3 能代川寄りの下道通り
☎22 0626
お正月は粗品進呈
◆1月の定休日／元日、2.8.(15㊐営業)20(第3日曜日)・22.29日です。
◆お正月は3日より6日まで「早じまい」AM9:00開店～PM5:00閉店です。
ヘアーステーション わたなべ駅前店
新駅前通り ☎22 2611